

【佳作】

「水は命」

大河原町立金ヶ瀬中学校
三年 中^{なか}村^{むら}美^み音^お

水は命だ。人間の体のほとんどは水でできており、それは約六十パーセントにおよぶ。そして、身体中の水が減っていくと様々な症状が表れ、十パーセントの水が失われると、死に至ってしまう可能性もある。だから、人間が生きていくためには、水が必要不可欠なのである。

水は命だ。私たちが食べる食べ物には、水がないと作られない。例えば、オムライスを思い浮かべてほしい。まず、上のにのっている卵は、にわとりから生まれたものだ。そのにわとりは、約六十パーセントが水分でできており、水がないと生きられない。そして、卵自体も七十パーセントが水分だ。次に、ケチャップライスは、人参、玉ねぎ、米、トマトなどからできている。これらの野菜に含まれる水は、八十〜九十パーセントだ。そして、これらの野菜は水がないと育たない。だから、私たちが食べ物を得るには、水が必要不可欠なのである。

水は命だ。私たちが住んでいる家、着ている服は、水がないと作られない。これら二つの材料は植物だ。植物には、七十〜九十パーセントの水分が含まれており、水がないと育たない。だから、私たちの住まいと服を得るには、水が必要不可欠なのである。

したがって、水はとても重要であり、命といっても過言ではないのである。だが、そんな水は、姿を変えることがある。それは単に氷になるのか、つぼに入ればその形になるとか、そういった話ではない。私たちの命を狙ってくることもあるのだ。

水は恐ろしい。大雨が降った時、水は容赦なく私たちに襲いかかってくる。洪水、高波浸水などは知つての通りだろう。それ以外にも、土砂崩れ

や土石流、がけ崩れも発生する。ひとえに大雨といっても、それによって引き起こされる災害は計り知れないのだ。

水は恐ろしい。大地震が起きたとき、水はいつもよりも強く、襲いかかってくる。津波となつてのみこんでいく。この場合、人間は無力となる。勝てるすべがない。圧倒的な水の力の前に、ただただ逃げるといふ選択肢しかないのだ。

水は恐ろしい。災害以外にも、十センチもあれば、人はおぼれる危険性があるのだ。それ以外にも、ひざ下ほどの水だと、動きがとれなくなってしまうこともある。ただの水だといつてあなどつてはいけないのである。

したがって、水は私たち人間にとって必要不可欠な存在であると同時に、敵にもなりうるのである。だが、水を憎めるだろうか？私は、憎しみより恩のほうが浮かぶ。だから、水を守つていきたいと思う。と同時に、世界中に安全な水が行きわたることを望む。

日本の水は、とてもきれいだ。安全基準も高く、水道をひねればおいしい水が出てくる。これは、あたりまえのことと思つてはいけない。世界には、水を得るのも難しく、得られたとしても危ない水であるという国も多い。だから、水を得られることに感謝していこうと思う。

そして、水を守つていきたいと思う。やり方はたくさんある。例えば、川のごみひろいや節水、温暖化対策だ。どれも、水を守ることにつながる。特に、温暖化対策を怠れば、水は、限りある資源となつてしまう。命のために必要な資源に限りがあつては、未来が危うくなつてしまうだろう。

水は、貴重な資源だ。敵となるときもあるけど、人間にとって命なのである。守るべき大切な命なのである。